

平成23年度 決算特別委員会（総括事項）

発 言 者	発 言 要 旨
井上（航）委員	<p>1 財政調整のための基金の額については、一般的に標準財政規模の10～15%程度が適当とされているが、埼玉県としてはどの程度が適当と考えるか。それに対して埼玉県の現在の残高はどうか。また、残高はどのように推移してきたのか。更に今年度は大規模な災害の発生などがあり、基金の重要性が高まってきたと思うが、それに対してどう考えるか。</p> <p>2 資料14に各種基金の状況が示されている。国の経済対策に伴う様々な目的の基金を、シラコバト長寿社会福祉基金で受け入れているようだが、積み立てと取り崩しの状況はどうか。また、複数の基金をシラコバト長寿社会福祉基金に集約している形になっているので、実態が分かりにくいのではないかと思うがどうか。</p>
財政課長	<p>1 本県では、4つの基金を財政調整のための基金としている。平成8年度までは、増額された交付税などにより積み増しを行い、ピークでは残高が2,500億円に達した。その後、景気低迷等による財源不足に対応するため基金を取り崩していき、平成12年度には800億円台となり、その後800億円を若干下回る額で推移している。昨年度は、厳しい財政状況であるが、一時的な景気の回復により収支不足を補うのに400億円程度取り崩し、年度途中の執行節減で回復している。今後の予算編成においても厳しい状況が予想され、400億円の2年分程度、800億円から1,000億円程度を確保しておきたいと考えている。</p> <p>2 シラコバト長寿社会福祉基金の具体的な内容については福祉部の審査の時をお願いしたい。国の経済対策によって設置された基金の執行状況については、平成22年度末で全国平均が41.4%の執行率となっており、本県は41.8%である。平成23年9月補正までの執行率は88.2%を見込んでおり、今後も基金を有効に活用していきたい。</p>
井上（航）委員	<p>震災などに対する備えとして、基金は大切であると思う。財政調整の中の4つの基金のうち、残高が65億円となっている財政調整</p>

発 言 者	発 言 要 旨
井上（航）委員 財政課長	<p>基金に限って何うが、今後の備えとしてどのように考えているのか。</p> <p>財政調整基金は、6月補正予算でも、東日本大震災対応のために活用したところである。積み増しをしたいというのが本音ではあるが、なかなか厳しいのが現状である。財政状況を見ながら努力していきたい。</p>